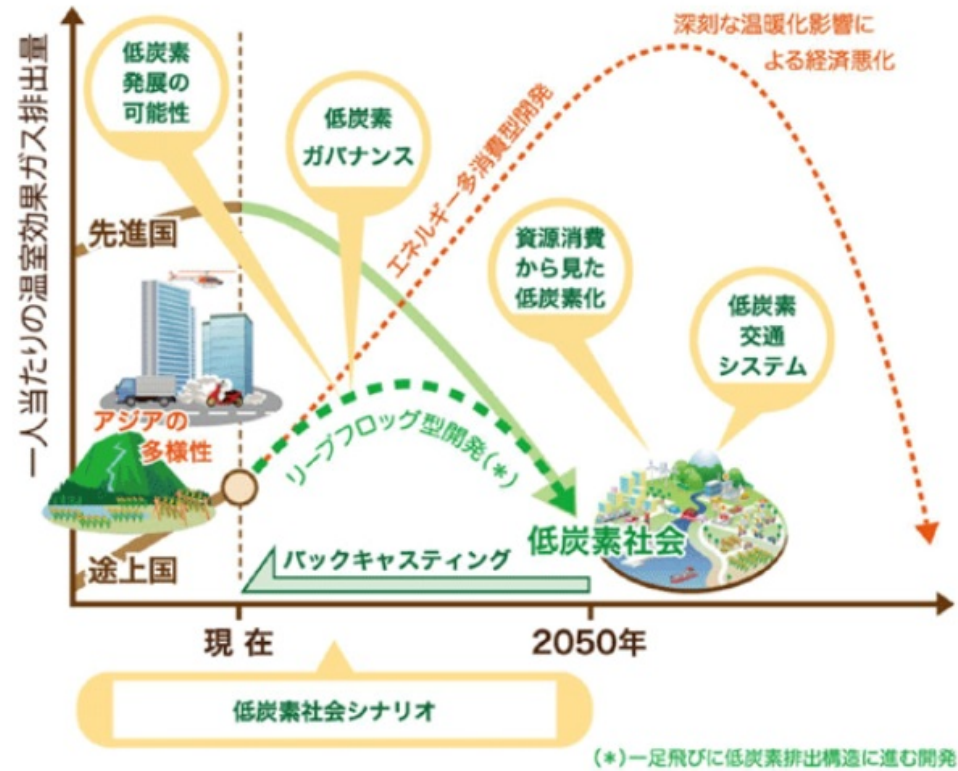


低炭素社会への都市交通システム

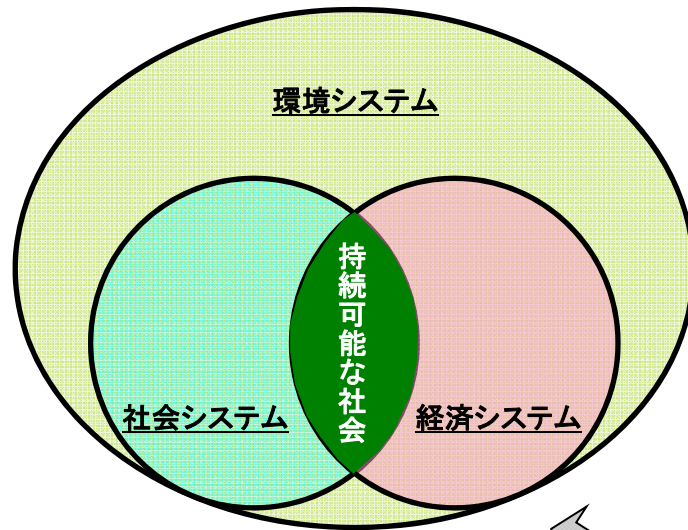
太田勝敏

- 課題へのアプローチ要件：
 - “持続可能な発展”の文脈で
 - 長期的かつグローバルな視点
 - 総合都市戦略として: 交通まちづくり
 - 目標(ビジョン)と戦略の共有:
 全員参加とガバナンス

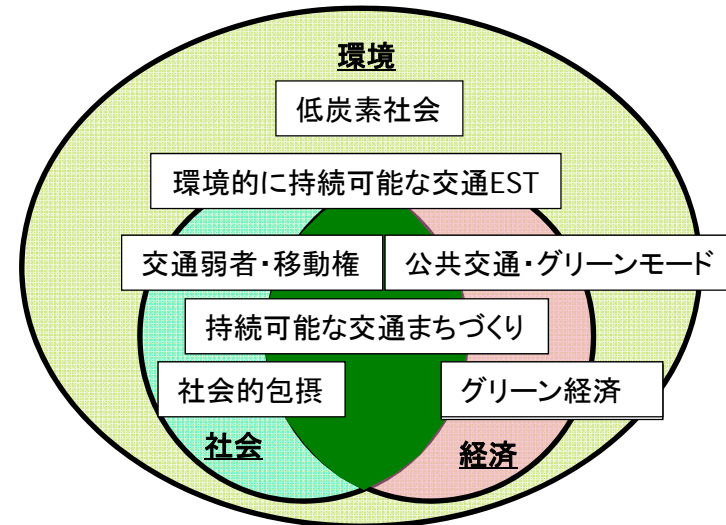


出所: 環境省AIM資料(Low-Carbon Asia : Scenarios and Actions)

持続可能な社会(ESS)



交通関連の政策キーワード

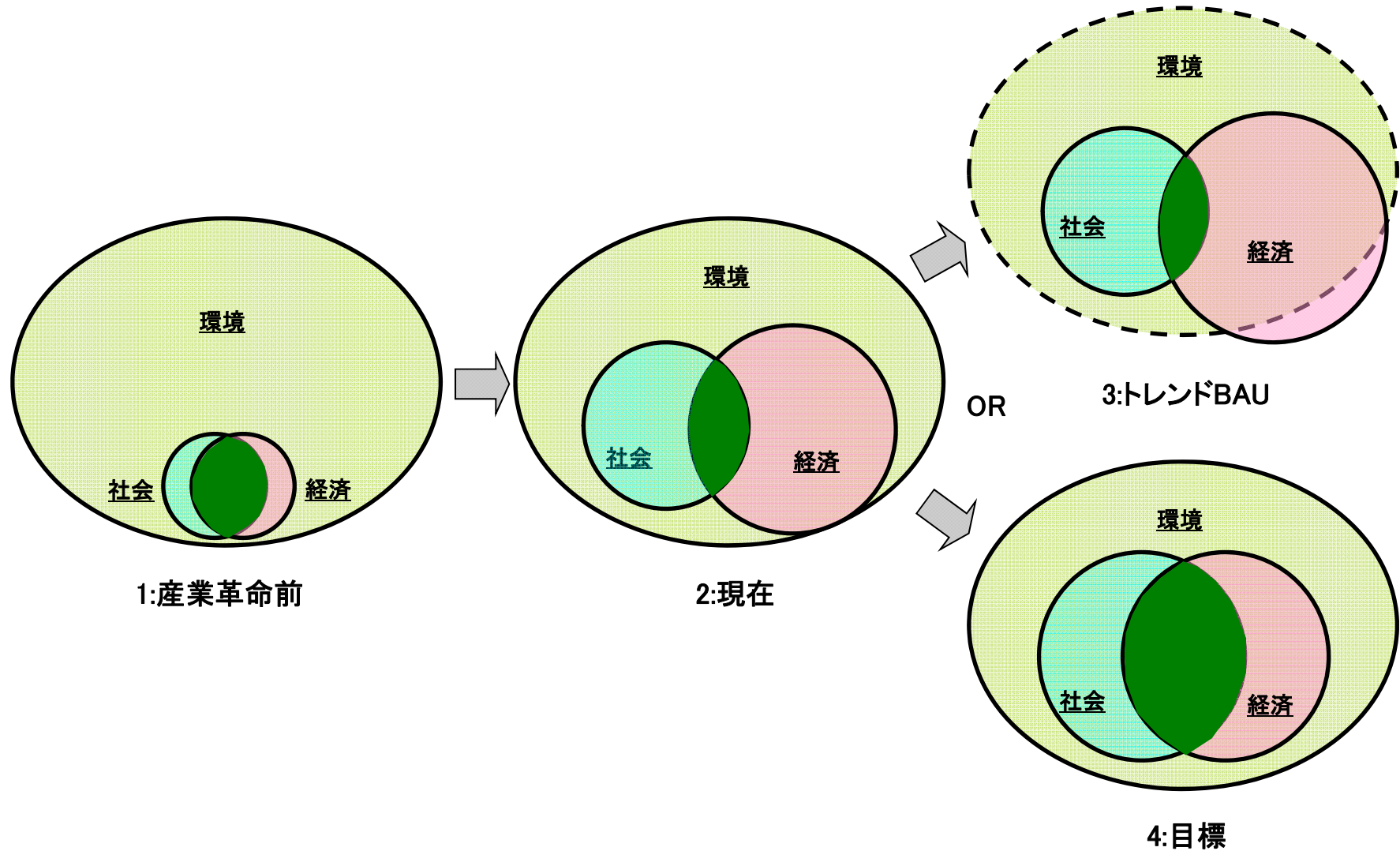


環境容量

- 気候システム, エネルギー, 資源/ゴミ,
- 土地,
- 食糧・水・土壌・森林,
- 生物多様性

出典:太田勝敏,「持続可能な交通に向けた政策と戦略」,
『国際環境共生学』第3章,朝倉書店,2005年

持続可能な社会へのシナリオ





低炭素システムへの施策 — 都市交通 —

- 交通総量の削減 — ライフスタイル・ビジネスモデルの変更
 - バーチャル交通, コンパクトシティ, 立地再構成
- 低炭素交通手段へのシフト (人流・物流)
 - 車から代替交通手段 (次世代の鉄道, バス, 自転車, 徒歩など) へ
- 自動車の低炭素化
 - 自動車の燃費改善, 脱化石燃料 (新エネ車)
 - 次世代自動車 — EV/FCV, 超小型車
 - “考えるクルマ” (connected / autonomous)
- 自動車交通サービスの効率化・改善 (ITS技術の活用)
 - 交通流の円滑化
 - 自動車利用の効率化 — シェアリング, 相乗り, 積載率アップ



行動計画

- 地元(豊田市)の特性を活かす

強み : クルマのまち(世界最強の技術力)

弱み : 車への依存性大

機会 : 車の進化開始期(ライフスタイル変化のきざし, ピークカー)

脅威 : 日本社会の活力低下(高齢化・人口減少)

ICT情報化時代と社会変化の急速化(不確実性とリスク)

⇒次世代モビリティ社会の開拓・先導

(Auto Sapiens への進化 : 考えるクルマ)

Think Globally, Act Locally !

AND Think Our Grandsons / daughters, Act Now !